

笑顔あふれる学校・思いやりあふれる学校・チャレンジあふれる学校  
 令和2年度 飯野中学校 学校だより 第68号  
 自律 志保井が丘 協働  
 挑戦 2020.12.11 発行 文責 校長 目黒 満 創造  
 教師・保護者・地域がみんなで見守り、みんなで育む学校

## 福島市月別新規感染者数更新！ 改めて新型コロナ感染拡大防止対策の徹底を！

今朝の新聞報道では、福島市の12月に入ってからの新規感染者数は42人となり、これまで最大だった11月の35人をわずか9日間で更新したとありました。

わずか9日間で月別新規感染者数の更新となってしまったことに驚きと恐怖を感じました。上旬だけで42人ということは、単純に考えて、万が一、今後も同じペースで感染が広がれば、月末には42人×3=126人の計算となります。

全国的に見ても、東京でも600人越えの更新となり、第1波、第2波をはるかに上回る感染拡大状況であり、一体いつ感染者数が減少に向かうのか、全く予測がつかない状況です。

改めて、感染拡大防止対策の再確認と徹底を、学校でも、各ご家庭でも、お願いしたいと思います。

学校ではマスク着用とこまめな手洗い・消毒、そしてできる限りのソーシャルディスタンス（特に給食時）の確保を改めて徹底していく必要があると考えます。

ご家庭でも、人混みや行列に並ぶなど、不特定多数の中にはできるだけ行かないことをまずは心がけ、帰宅したらすぐに石けんで30秒以上の手洗いを、またこまめな消毒もお願いいたします。家庭内でのソーシャルディスタンスとかマスク着用も話題には出ますが、なかなか難しいと思いますので、ウイルスのいそうな場所を避け、家庭の中にウイルスを持ち込まないことを徹底することが大切かと思えます。

改めて、感染予防対策を一つ一つしっかりと実践するよう、ご家族で、何より一人一人が心がけるようにお願いします。もう、この状況は、誰がどこで感染してもおかしくない状況です。一人一人が感染予防のためにできることを精一杯、一生懸命に実行していきましょう！

## おめでとうございます！

先日、「こもれび」の全国PTA広報誌コンクールでの日本教育新聞社社長賞受賞をお知らせしましたが、12月9日の福島民友紙面に、本校PTAの皆さんのへの取材記事が掲載されていましたので、紹介します。

委員「飽きさせない」心掛け

第42回全国小・中学校PTA広報誌コンクールで中学校部門日本教育新聞社長賞に選ばれた飯野中父母と教師の会（福島市）の「こもれび」は、今年で4年連続の入賞となった。中心となって制作に当たっている同会広報委員会の松本敬さん(49)は「保護者の協力のおかげで面白い紙面を作ることができて」と感謝する。同賞は、文部科学大臣賞、日本PTA全国協議会長賞に次ぐ3番目の賞。

こもれびは、同委員会の8人が学期ごとに発行している。発行に当たり心掛けていることは、読者を飽きさせないこと。生徒と先生の写真を多く使うなど工夫を凝らしているという。片面A4オールカラーの紙面を開くと、所狭しと並んだ学校行事での生徒の素顔や、ポーズを取る先生の写真が目飛び込む。松本さんは「保護者には先生の表情など、学校の見えないところが伝わる。生徒も自分の写真が載っていれば楽しめる」と説明する。

委員会が特に力を入れているのは生徒と保護者から取るアンケートだ。「あなたのこの頃の自慢できるところは？」など、普段親子で話さないような本音が載り、生徒と保護者の橋渡しも担っている。

回答内容が充実し、回収率も良いため、制作チームは多くの時間をアンケート集計に当てているという。今年には新型コロナウイルス感染症の影響で学校行事の中止や縮小が相次いだ中、こもれびは途切れることなく発行。広報委員長阿部友恵さん(44)は「学校の様子がよく伝わっている内容だと評価されたのだと思う。不安な時期だからこそ、学校の様子を保護者に伝えたい」と話している。

入賞した昨年度の広報紙

飯野中 全国PTA広報紙入賞

保護者協力 面白い紙面

飯野中父母と教師の会の（左から）斎藤智之会長、阿部広報委員長、松本さん

編集・発行担当の皆様、アンケート等に協力いただいた皆様に改めて感謝いたします！